

資本装備の増大こそ生産増大の重点

前号において

「自立経営」の確立宣言である農基法第15条こそ、これを達成するための諸条件とあわせて、農本主義的な農業よりぬけ出して、経営主義的な農業樹立のため、すなわち農業が日本経済の中で適切な位置をしめるための最大の長所であるとみてきたが、それでは法三十カ条はこれで充分か、短所はないだろうか。大いにある。

われわれはむしろ長所より短所に目を向け、これを確実に把握し短所を正すような法の運用を強く押し進めるよう政府に懇請し、またこれを改正するための努力を怠るならば日本農業史における歴史的な快挙である「自立経営」の確立宣言も砂上の楼閣で、大化の改新以来、千載一遇の農業改革の好機を逸するに至るであろう。

農基法の短所

たこれを改正するための努力を怠るならば日本農業史における歴史的な快挙である「自立経営」の確立宣言も砂上の楼閣で、大化の改新以来、千載一遇の農業改革の好機を逸するに至るであろう。

①貿易自由化対策がない。立案の当時、すでに世界経済の流れは自由化の方向に向っていたのであり、わ

たこれを改正するための努力を怠るならば日本農業史における歴史的な快挙である「自立経営」の確立宣言も砂上の楼閣で、大化の改新以来、千載一遇の農業改革の好機を逸するに至るであろう。

が国の農産物が国際価格より平均四割ほど高かったのであるから「自立農家」の生産向上の目標に国際性を持たせるような配慮がなければならぬにもかかわらず、ほとんどこのことにはふれていない。

②日本農業の立地条件の優位性に対する認識がない。国民の食糧構造の変化により、畜産の飛躍を計ることが、農業改革の重点であることが明らかであるならば、畜産の主な飼料が牧草であるから、牧草生産力が欧米にくらべ10倍の力のある日本の立地条件こそは農業経営の最大の優位性である。

したがって、日本の近代的農業は農政のあり方次第で世界水準を抜くことができる。

農基法の前文に、この優位性を強調すべきであった。

農政の貧困からくる弱点のみが目を見るために、外国の農業との太刀打ちに対してフットがわいてこない。

③農業改革の目標とタイミングの認識がない。

他産業との所得の均衡を唱えていながらも、その目標がはっきりしていない。

10年すると他産業従事者が現在の倍の所得を得るようになることは経済成長率からみて明らかである。現在他産業の三分の一の所得しか得ていない農民が10～15年間に所得の均衡を得るためには農政はどうかあるべきかの方向を示すべきである。

④工業との調和の上に、農業改革を考慮すべきである。

日本の二、三次産業が成熟期に達するまでの十数年間、農業から一、〇〇万人の人口が移動しなければならぬとは識者の唱えるところである。

都市人口の過密問題と考え合わせると、二、三次産業の成長と農業改革は調和を保ってこそ日本経済が健全に発展するのであるが、法はこれらの認識がない。

以上、四点と共に私たちが最も留意しなければ

現在農業と他産業との格差が1:3以上であるからパイロット計画完成で2倍所得となっても他産業も2倍以上となるので格差はなくなる、むしろ開く。成田計画のように6倍以上となつてこそ格差はなくなる。この計算が大切

全国パイロット計画の姿	当農類型	地区数	地区平均		一戸平均		事業費	補助額	一人当り		生産額	倍率	
			戸数	面積(ヘクタール)	面積(アール)	現在			改善後				
米	12	190	190	19	100	10	88,633	43,807	74,532	127,669	200	643	3.2
水田酪農	6	220	194	3	88	1	112,848	49,081	85,072	132,909	206	441	2.1
稲草酪農	10	190	295	109	155	57	107,138	39,230	67,670	131,816	167	429	2.5
肉牛	5	228	310	296	136	130	102,197	39,756	99,314	240,584	766	2,848	3.4
豚	3	201	241	1	120	0	78,008	36,851	116,137	226,643	209	570	2.7
鶏	3	287	193	1	67	0	111,420	51,375	103,938	272,744	162	665	4.1
みか	13	288	268	3	93	1	116,725	43,713	138,312	254,892	175	425	3.0
蘋果	7	371	233	17	63	5	91,141	42,653	99,053	166,171	171	336	2.1
さくらんぼ	7	198	168	4	85	2	95,225	43,297	89,128	171,347	179	461	2.4
茶	3	243	113	1	46	0	115,184	60,605	107,776	204,447	176	379	2.1
養蚕	4	245	200	63	81	26	75,749	39,165	73,079	118,357	118	243	2.0
その他	3	332	399	55	120	17	223,962	75,341	102,874	174,741	212	526	2.4
平均		76	243	234	45	94	105,705	44,581	95,774	179,420	167	427	2.5

成田計画の姿	類型	戸数	一戸平均面積	一戸平均		一人当り	生産額	倍率
				総額	補助額			
水田酪農	100戸	400アール	9,487,300	2,543,650	6,943,650	200	1,710	6.5

年末の郵便に協力を

年末の郵便をスムーズにするために、郵政省では施設を拡充強化して万全を期しております。しかし年末にはほう大な量の郵便物が出廻り、とくに十二月後半

は、平常の三倍から八倍の郵便物を取り扱いますので、次のことについてご協力をお願いします。

世界水準の農業シリーズ⑤

ばならないことは現在の農政のあり方である。農基法の施行ののち政府が取りあげた最も大きな事業は構造改善事業ですが、これすらが法の示す方向とは離れたものになりつつあるということである。

差は、むしろ増大しており、構造改善パイロット地区においてすら、その完成のときといえどもやはり格差は現在と同じであるという点においてはなにかいわんやである。

別表をみれば、おわりのことと思いますが、成田方式が農業構造改善の希望の星である。私したちは、いまやこの方式の

小包は12月10日 年賀状は、22日までに

年末の小包は、遅いところでは貨車便で、十日以上もかかります。それに年賀状の引受けが十二月十五日からはじまり、小包の処理が遅れると年賀状の処理と重なって混乱をまねきます。小包は年内はやめに、また、年賀状は年内にさし出されたものをなるべく元旦に配達します。小包は十二月十日ごろまでに、年賀状は十二月二十二日ごろまでにさし出して下さい。

市内あてと 地方あてを別々に 一度にたくさん年賀状を出すときは、なるべく市内あてのもの

研究実現に努力すべきではないでしょうか。(徳永安雄)

転入、転居の届け出は十四日以内に 市の窓口係へ

あて名は正確に ぐわしく

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

みんなの広場

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。

年賀状のあて名はとく簡単に書きがちですが、都道府県名から番地、何々方とかた書きまで、ぐわしく記入して下さい。